



民家を描く

えと文

市原茂行

藁葺の民家の点在する風景を、いつの日かキャンバスに留めたいと思っていた。山里の部落で、私は神々しい風景に出会った。大地に生きる人々への共感が、失われようとする物への郷愁か、それとも単なる感傷であろうか、民家の美しさにひかれ、夢中でスケッチをした。道を行きかう人すべてが「今日は」と声をかけてゆく。今なお何かが残っている、この山里の風景と人々との出会い、それは喜びであると風がおしえてくれた。

(香里中学・高等学校教諭)